

こがねや通信

ゆかり野

第26号

ゆかり野とは、
小誌が人と人のご縁(ゆかり)を大切にしたい、
という弊社の願いを表しています。



特集

「葉っぱが教えてくれたもの」
葉画家 群馬直美さんインタビュー

「お天とう様の心」

高尾山 薬王院「八十八大師霊場」
アタマの体操クイズ&抽選プレゼント



表紙絵：群馬直美(右上から時計回りにケヤキ、ハウチワカエデ、トウカエデ)

ゆかり野

第26号

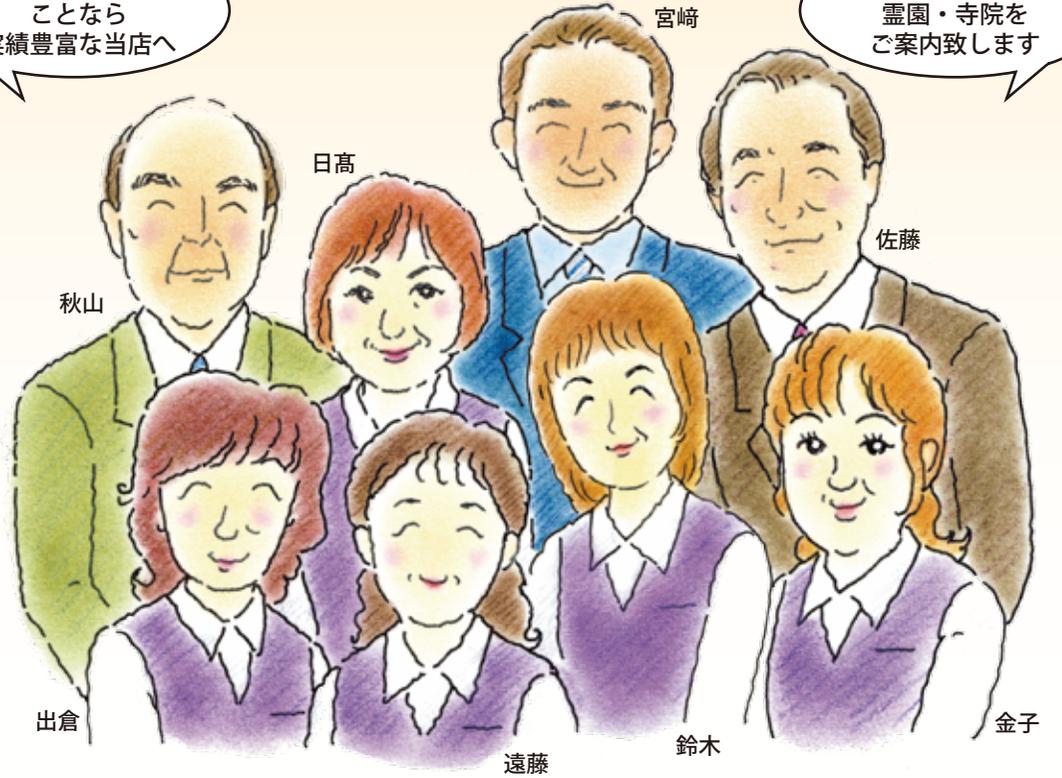
●発行人・保立允 ●表紙・群馬直美 ●編集・(株)東報エージェンシー ●画像提供・(有)えくてびあん
●発行・こがねや石材株式会社 〒184-0013 東京都小金井市前原町4-12-30 電話 042(385)1121

創業80年

あなたの信頼におこたえます

霊園・墓所工事のことなら
実績豊富な当店へ

首都圏近郊の
霊園・寺院を
ご案内致します



- 墓前法要、ご納骨 ●ご会食 ●ご葬儀
- 墓所清掃、供花 ●植木手入れ
- 墓所リフォーム、クリーニング ●追加刻字(戒名等)
- 都立霊園の申請 ●お仏壇、お位牌

仏事に関するご質問などがございましたらお気軽にご相談下さいませ

全優石認定店 **全優石**・石産協加盟店

大本山高尾山薬王院御用達・都知事許可(般18)第41587号

こがねや石材株式会社

仏事・墓石相談窓口

葬儀相談窓口(24時間受付)

 **0120-371-121**

 **0120-456-444**

(セレポート21/葬儀企画・施行)

<http://www.koganeya-148.com/>

office@koganeya-148.com

〒184-0013 東京都小金井市前原町4-12-30
TEL042-385-1121 FAX042-385-0210

こがねや石材

検索

多磨霊園に眠る著名人

～著名人が残した言葉～



2区1種7側48番

徳川無声（芸術家）

1894～1971

無声映画時代に弁士として活躍。後にラジオやテレビ番組で活躍し日本の元祖マルチタレントと言われる。1939年からのNHKラジオでは吉川英治の『宮本武蔵』の朗読で人気を博した。

「おい、いい夫婦だったなあ」

苦楽を共に連れ添い、後に残した妻への最期の言葉であった。



20区1種51側5番

吉川英治（作家）

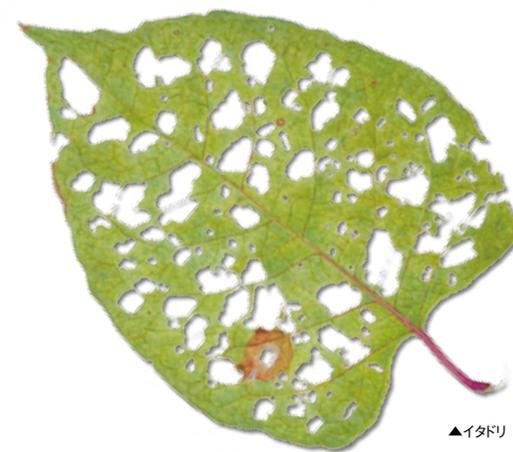
1892～1962

歴史小説、時代小説で幅広い読者層をもつ人気作家。作家代表作『宮本武蔵』で国民文学作家といわれる。

晴れた日は晴れを愛し、雨の日は雨を愛す。

楽しみあるところに楽しみ、楽しみなきところに楽しむ。

人生を逆境のなかで悲嘆に感じるのではなくむしろそれが人生なのだという、受容の精神で生きる人間の強さを称えている。



▲イタドリ

葉っぱが 教えてくれたもの

葉っぱの精神

前号に続き本号の表紙を飾る、実物と見紛う緻密なイラストの作者。葉っぱをありのままに描く葉画家、群馬直美さんにお話を伺いました。

葉っぱとの出会い

美大生の頃、自分の感覚は世の中の人とずれているのかも……と思いついた。何も創れなくなったことがありました。そんな時、ジョギング中にふと見上げた新緑が太陽の光に透け、すごく美しかったのです。心の奥深くに葉っぱの命の輝きが染み入ってきて、何か大きな手で救い出されたような気がしました。ありのままの自分をそのまま、受けとめてもらったような感じでした。そうだ！この感覚をみんなに伝えよう。



葉画家 群馬直美

翌日から葉っぱの作品を創るようになりまし。今から30年前のことです。

描きながら感じること

この葉っぱはどんな経験をしてきたんだろうと想像します。表面についた傷跡や埃、虫喰い穴などを丹念に描き込んでゆくと、葉っぱの絵がどんどん生き生きとしてきます。人も同じで、負の要素に思える経験も、じつは私の心を磨いてくれているのでは？と葉っぱを描くたび思います。

葉っぱの精神とは

この世の中のひとつひとつのものは、すべて同じ価値があり光り輝く存在である。身近な葉っぱを追い続けていたら、こんな言葉が生まれました。葉っぱの精神と私は呼んでいます。世界中どこを探しても、全く同じものとは巡り会うことはできません。葉っぱも花も人も出来事も……「無駄なことなど一つもない。ありのままがいいんだよ」と葉っぱが教えてくれました。そんなことを伝えていけたらいいなと思います。



お客様からのお手紙

何時もながら「ゆかり野」を送って頂き有難う御座います。今回の記事の中で、「次の世代へ伝えたい事」に共感を覚えました。私は、墓参の際には、息子達に極力孫を連れてこさせるようにと言っております。そして、墓参が終わると、常に花小金井のお寿司屋さんに寄って孫たちにお寿司を食べさせてあげるのが、恒例となっております。私は、お寿司を食べたいために孫たちが墓参に来ることも良いと思っております。それが、孫たちの習慣となれば、必然的に、ご先祖様を敬う気持ちになると思っております。

平成二十三年六月
久保宏



※前号のご感想をお寄せ頂きました。



最近のご活動は？

NHK出版からの依頼で、「花」や「芽吹き」も描いています。一年間の連載ですが、これもすごく面白いです。

葉っぱを追い続け新しい発見は？

今年は、トチノキを芽吹き前から観察しました。メリメリッ音が聞こえそうなくらいの凄い芽吹きでした。まるでさなぎが蝶になるときみたいで、トチノキの生命力に大感動しました。葉っぱを見つめて30年。まだまだ新鮮な感動がたくさん。葉っぱは奥が深いですね。

ワークショップでは？

参加者それぞれが葉っぱと向き合い、会話するように描いています。ありのままの自分で、ありのままの葉っぱと向き合う心落ち着くひと時。小さな葉っぱの限らない命の輝きを感じていただけたらいいなと思っています。

作品展のご案内

アトリエ展『石田倉庫のアートな二日間「らくがき」』
2011年10月29日(土)・30日(日)
場所：東京都立川市「石田倉庫」にて開催予定
www.ishida-soko.com



アトリエ「石田倉庫No.3」にて

プロフィール

群馬県高崎市生まれ
東京造形大学絵画学科 卒業
現在 東京都立川市在住

お天とう様の心

NPOおばあちゃんの知恵袋の会
村尾宏



「お天とう様はね、いつもマキのことを見守っているよ。」この言葉が口ぐせの、お天とう様が大好きだったおばあちゃんのお墓参りだというのに、あーあ、今日は雨もよう。なんだか暗くてさみしいお天気です。

「いつまでも雲の中に隠れていないで、早く出てきてよ、お天とう様。」

マキちゃんは傘の中から空を見あげてふくれました。

お墓参りのあと、お父さんとお母さんは霊園の休憩所で、ゆつくりコーヒーを飲んでいます。アイスクリームを食べ終えた小学三年生のマキちゃんは、退屈してしまい、散歩に出ました。

おや、雨の中、すぐ先の草むらで何かが光っています。近寄つてのぞいてみると、それは小さな手鏡でした。鏡の裏側には宝石のようなガラスが散りばめられていてキラキラ光っています。「うわあー、きれい。」

マキちゃんを起こしてくれたおばあさんの手は柔らかく、とてもあたたかです。その手にホッとして、マキちゃんが鏡のことを謝ろうとしたとき、

「あらま、鏡がこんなところに。」

おばあさんが嬉しそうな声をあげました。見るとマキちゃんの足元に、あの鏡が転がっています。鏡はマキちゃんが転んだ拍子に、ポケットから飛び出したのでしょうか。

「おやおや、こんなところに落としていたんだね。本当にうっかりものだ。おじょうちゃんのおかげで見つかりましたよ。」

鏡を拾い上げたおばあさんは嬉しそうです。

「おばあさん、ごめんなさい。本当はあたし、その鏡を拾ったの。」

マキちゃんは正直に話し始めました。おばあさんは黙って聞いていましたが、マキちゃんが話し終えると

「おじょうちゃん、ありがとう。」

といつて大きくうなずき、マキちゃんをやさしく抱きしめると、そのまま帰って行きました。

おばあちゃんの後姿を見送るマキちゃんの横顔に、爽やかな風が吹いていました。

「転んだのは、マキがウソをついたからかな。」

昔、亡くなったおばあちゃんから教わった「バチが当たる」という言葉を、マキちゃんは思い出しました。空を見上げると、いつのまにか雨はやんで、



マキちゃんは鏡をのぞき込んだり裏返してみたり。そしてポケットに大事にしまいました。ふとふり返ると、おばあさんが雨の中、何かを一生懸命探しています。そしてマキちゃんに気がつくこと、こまった声でこうたずねました。

「おじょうちゃん、小さな鏡が落ちていなかったかね。どうやらお墓参りのとき、落としてしまったようなんですよ。亡くなったおじいさんがプレゼントしてくれた、大切な鏡だったのに。」

マキちゃんはドキリとして思わずポケットを手で押さえました。

「ううん、知らない」

と、その場を離れたのでした。

太陽が雲の上から顔を出しています。

ふと足元を見ると、あちこちの水たまりの中に、お天とう様は輝いていたのでした。

『ウソをつくのはよくないね、でも、正直にそれを話すのは、勇気があることなんだよ。マキ、許してもらえてよかったですね。』

空の上から、なつかしいおばあちゃんの声が聞こえてくるようでした。

「お天とう様はね、いつもマキのことを見守っているよ。」

そう話してくれたおばあちゃん、今はお天とう様になって、マキちゃんをずっと、見守つてくれているのでしょうか。

てんとう お天道様は見ている

天道は辞書によると「天地を支配する神、太陽」とあります。「日中のお日様が出ている明るいうちは誰かが必ず見ているから、悪いことはしてはいけない」と幼い頃は思いがちです。しかしその真意は、『他人の目がなくても、悪いことをしてはいけない』いわば仏教の「善行を積む」という教えに由来します。お天道様は、実は自分の心なのですね。

昨今あまり聞かれなくなった日本人の美德の言葉。ごく自然に自分を律していける、そんな人になりたいものです。

〈編集部談〉

『ウソついちゃった…。』
マキちゃんは心が痛くなり、唇をかみしめました。見るとおばあさんは腰をかがめて、まだ鏡を探しています。
『大切な鏡なんだ…。返さなきゃ。でも返しづらいなあ』
ポケットの中で鏡を握りしめました。
『本当のことを言わなきゃ…。』
正直に謝ろうと、おばあさんの方へ勢いよく走り出そうとした途端、マキちゃんは水たまりに足をとられ、泥水のなかに転んでしまいました。
「バシヤッ!という音に驚いたおばあさんが駆けつけて、助け起こしてくれました。
「だいじょうぶかい。おやおや、泥んこになっちゃったねえ」

	職		前		後
明		居		対	
正			全		
C		所		感	
B	分	証		一	A
賞					
長		間			

人	公	念
空	性	作
賛	間	性
音	等	場
統	大	階
絶	身	

今回の出題は漢字クロスワードです。

脳の体操

アタマ

ルール

タテ・ヨコに意味のある熟語になるように、空欄に右の漢字をひとつずつ当てはめてください。



前号のクイズの答えは **A** 4 **B** 2 **C** 6 **D** 6

たくさんの方からご応募頂き、ありがとうございました。

正解者の中から
抽選で!

群馬直美さんのオリジナル絵葉書

5枚
1セット

素敵なイラストの絵葉書を30名様にプレゼント



<応募要項>

- 官製はがきに、答え A～C を書いて、以下①・②を明記の上、右記住所までご郵送下さい。
- ①「ゆかり野」または弊社へのご意見、ご感想
- ②郵便番号・ご住所・お名前(フリガナ)・電話番号

A B C

- 締切/平成23年10月31日(当日消印有効)
※当選者の発表は、絵葉書の発送をもって代えさせていただきます。
- お送り先: 〒184-0013
東京都小金井市前原町4-12-30
こがねや石材(株) ゆかり野アンケート係

読者様限定!

こがねや石材からのお知らせ

この度、神奈川県相模原市「日本庭園陵墓 紅葉亭」にて(株)メガネスーパー オーナー様とご縁を頂きました。このご縁により**特別優待券**をご提供頂けることになりました。眼鏡等ご購入の際にはご利用下さいませ。



修行中の弘法大師を祀る大師堂。その周りに八十八の大師の石像がずらりと鎮座しています。ひとつひとつの足元にガラスの覆いのある踏み所が用意され、中には各八十八箇所のお寺の石が納められています。

八十八大師霊場



高尾山薬王院

八十八大師霊場

設計・施工 こがねや石材(株)

衛門三郎伝説

四国遍路の始まりとされる

昔、伊予の国(愛媛県)に、河野衛門三郎という強欲な大百姓が住んでいた。ある日、家に托鉢にやつて来た僧侶を追い返そうとした。動こうとしない僧侶に腹を立てた衛門三郎が、竹ぼうきで僧侶の腕をたたき落とした。腕は八つに割れて飛び散ってしまった。その翌日から衛門三郎の八人の子供が次々と死んでしまう。悲しむ衛門三郎の夢枕に、あのお坊さまが現れ「全非を悔いて情け深い人

になれ」と告げる。衛門三郎は、自分が強欲であったことを悔い、あの時の旅僧は弘法大師だと気が付いた。懺悔の気持ちで三郎は、四国を巡っている弘法大師を捜したが、阿波の焼山寺の麓で旅路の疲れで倒れてしまった。そのとき、三郎の前に弘法大師が現れた。三郎は今までの非を詫び、「来世では人のお役に立ちたい」という望みを残して死んでしまった。大師は道ばたの石を取り「衛門三郎再来」と書き、三郎の手

に握らせた。数年後、道後の領主の妻に子供が生まれた。その子が何故か左手を固く握って開かない。父母は心配して安養寺の住職に加持してもらい手を開くと、石が転げ出た。石には「衛門三郎再来」と書かれていた。その子は十五歳で家督を継ぎ、人民を慈しみ偉大な功績をあげたという。これが四国遍路のはじまりといわれています。



衛門三郎領徳碑